



優秀賞

石川晋次建築設計事務所

石川 晋次

【作品名】

法成寺の家

設計	石川晋次建築設計事務所
施工	石川晋次建築設計事務所
竣工日	2020年9月15日

建物概要

建設地	広島県福山市	延床面積	127.90㎡
敷地面積	193.51㎡	構造・規模	木造2階建

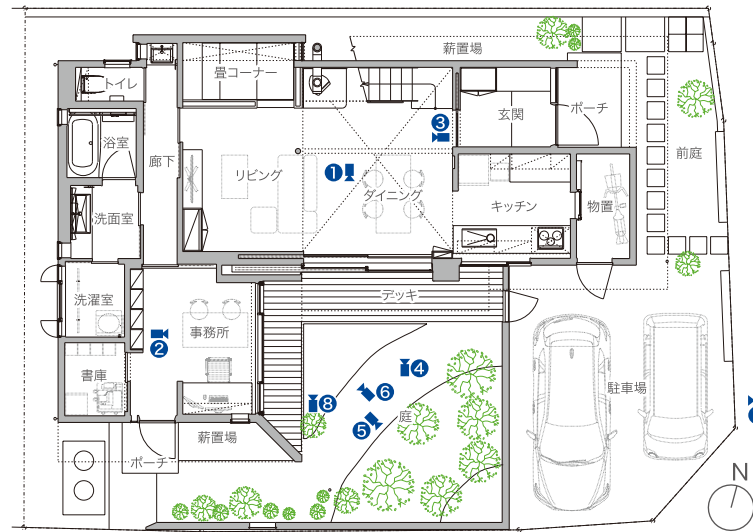
設備面の特記

厨房機器	IHクッキングヒーター
給湯機器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン・薪ストーブ

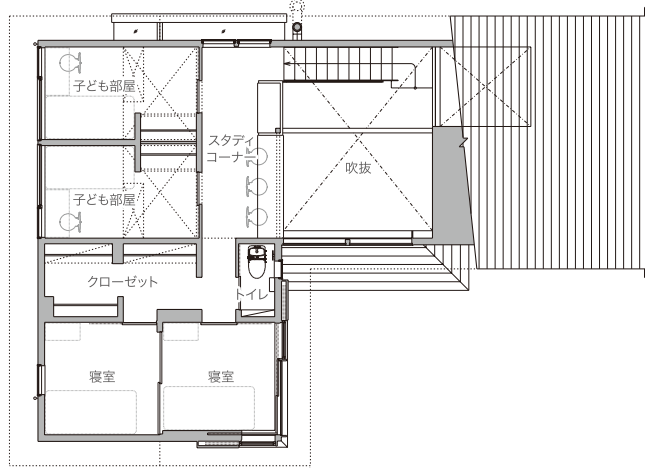


平面図

1F



2F



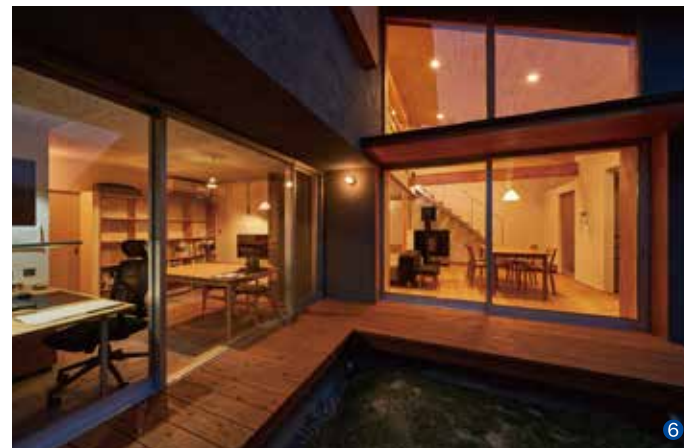
設計コンセプト

福山市北部郊外の敷地に建つ、4人家族の住居と設計事務所を併せ持った設計者自身の住宅。駐車場と庭を囲うように建物をL字型に配置し、L字のそれぞれの先端に住居と事務所の入口を設けている。小中学校の通学路で地域の生活道でもあるやや交通量の多い前面道路に対して、プライバシーを確保するため、建物と回転対称状のL字型に塀を設けて庭を囲い込み、住居と事務所の双方から全開口で庭とつながる配置にした。また、切妻の大きな屋根を形成しながら、道路に対して軒を低く構えて、屋根面を視線下にし、軒下に植栽や枕木の柵（腰掛）、鎖樋を配して、道行く人に穏やかな印象を与える。庭は、暮らしの場と仕事の場をほどよい距離感でつなぐ空間的余白や、住まいに自然の潤いをもたらす感覚的要素としてだけでなく、

実際にその場を使って活動することを企図している。焚火をしてキャンプをしたり、デッキにテーブルを移動して外で食事をとったり、ハンモックを掛けて昼寝をしたり、樹木や花や果実、そこに集まる虫や鳥とのふれあいを子どもに与える装置として計画した。この庭にLDK、事務所、吹き抜け越しに階段と2階スタディコーナー、寝室を接して、室内と庭の意識的距離、量的ボリュームを近づけ、相互が均等に作用するひとまわりの領域をつくらうとした。建物も庭も、その使い方で有様は変わる。動植物や子ども達が体現してくれる情景に、暮らしの豊かさを感じている。

審査委員講評

L字型に配置された建物と打ち放しコンクリート塀に囲まれた立体的な庭を家の中心に据える。設計の意図は見事に日常の暮らしに快適な喜びをもたらしているようです。どんぐり拾い、焚火ごはんに興じる子どもたち。そして、それを眺めながらの充実したホームワーク。そのまま何かのコマーシャルの一場面に使えそうなアフターコロナへの一つの答えです。



- ①ダイニングと庭。サッシと障子を引き込んで、床とフラットなデッキで庭とつながる。
- ②庭を通してダイニングキッチンの様子が伝わる事務所。
- ③リビング・ダイニングは、プライバシーを保ちながら、大きな開口と吹き抜けによって明るく開放的な空間としている。
- ④⑤焚火やどんぐり拾いなどを通じて、庭で自然とのふれあいを楽しむ子どもたち



- ⑥庭からの夜景。団らんの場と仕事の場のつながりを感じながら、ほどよい距離感を保っている。
- ⑦庭を囲む塀と樹木によってプライバシーが保たれるため、窓辺にカーテンが不要で住まいの温かな雰囲気外部にも伝わる。
- ⑧プライバシーを確保した庭を中心に配置。庭には、焚火ができるよう川に見立てた石敷きの路地を通し、箱庭のように小さな丘と山を配し、自然の景観を立体的に作り出している。